

PMR 資格試験への挑戦 2

振り返りと、価値の再構築を通して

檜木 梨花子

■ 受験動機

2018年に社内でプロジェクトマネジメント勉強会があり、講師2名から講義を受けた事がP2Mとの出会いでした。その頃は自身の中で研究-製品開発-製品化がスムーズに行く方法、あるいはクローズした場合の価値について模索・熟考した時期でもありました。講義はきっかけですが、暗黙知として経験で身に付けた事を、体系だった形式知として再度学習し直す事で、出来事からバイアスを除き、より多角的な視点で捉えたく思い「プログラム&プロジェクトマネジメント標準ガイドブック」等での学習を深める様になりました。そして高位概念のプログラムにも興味を持ちました。

2019年6月のPMS試験でPMR受験資格は得ており、自身の実践を振り返るため、また上記の社内の講師や、PMAJ事務局の方から勧めて頂いた事もあり、受験しました。

■ 受験の感想

1次試験の論述は2020年度からCBT形式になり、従来ピックアップされていた「手書きの大変さ」は無かったです。一方で試験時間の「180分間」は長い様で短い事は同じでした。4つの課題のうち、1つに時間を掛け過ぎないように時間配分して開始しましたが、業務内容や経験に近いものに対し、真に課題を抽出し、解消するかの様に時間を掛け過ぎました。気づきも多く良かったのですが、短時間で背景にある問題点や、本質的にどうすれば良いのかを見抜き、記述するという試験の目的に対しては反省点です。

2次試験までは体調を崩さない様に特に気を付けました。2020年度試験はコロナ禍という特殊性があり、2021年度試験までには収束している事を願いますが、試験全体を通して会場の対策は徹底しており、安心して試験を受ける事が出来ました。

2次試験は初めて出会う方と所見の課題に対して、チームで討議し、リーダーシップやフォロワーシップを発揮しながら、論理的かつ効果的なチームとしての提案を短時間で纏める事に難しさがありました。しかし一人では浮かばなかったアイデアが出たり、審査員の方の助言から、利害関係者も含めた価値の創造のために提案の方向性を再考したりと、試験でありながらも、メンバーの相乗効果の重要性を改めて学ぶ機会となりました。

最終審査は自身の信念の部分を言葉にする事が出来たと共に、面接官の方からの的確で鋭い指摘により、自分の弱み・強みの理解と、成長も促されたと感じております。

■ PMRとしての展望

自身の姿勢や強み・弱みを再認識した上で、実践をし続ける事と、プログラムの観点を広げていきたいと考えています。また個人ベースの社会活動として、星空と環境を守るPJの立ち上げと展開、ライトダウン活動の推進と事務局、科学教育などを10年程行っています。その中で「プログラムの価値 > Σ(配下のプロジェクト群の価値)」は肌で感じて来ました。P2Mの考え方や精神は、社会活動の中でも効果が高いという事を併せて伝え広めていきたいです。

未筆ではございますが、初めて研修を受けた時から、今までご指導や気づきの機会を頂きましたPMAJの皆さまに厚く御礼申し上げます。



【プロフィール】 檜木 梨花子(ひのき りかこ)

化学系製品メーカー 研究開発本部 製品開発部

総合光学機器メーカー、省庁系医科大学校での勤務を経て現職。企画・カスタマーサポート、検査・品質管理、プロセス開発、研究開発などの業務に従事。

2019年6月PMS取得、2021年3月PMR試験合格。